

くまもと戦争と平和のミュージアム

設立趣意書案



令和2（2020）年8月、アジア・太平洋戦争が終って75年の平和な月日が流れました。

今や日本の社会全体が過去の戦争のことを忘れ去ろうとしています。戦争体験者は国民の2割をきり、ご遺族の方々も高齢化しており、平和な社会と繁栄の時代への出発点となったさきの大戦の記憶が薄れつつあります。

思えばわが国は、この戦争で中国大陸や遠く南方の島々まで戦線を拡げて、そして郷土熊本の第六師団とともに、私たちの父や兄弟たちの命も失われました。ひるがえって県下各地は、度重なる空襲で甚大な被害と多くの命が犠牲となりました。言葉に尽くせない悲しみの記憶があります。また同時に、多くの国々に多大な迷惑をかけました。

この戦争の実相と戦争が残した計り知れない教訓を、次の世代に伝えることは、今に生きる私たちの責務であると思います。それは、戦争で亡くなった方々への鎮魂であると共に、私たちが再び戦争の惨禍を引き起こさないためにも、次の時代に向け平和の礎として戦争と平和のミュージアムを設立することが極めて重要なことだと考えます。

いま全国・県内では、戦争に関する資料の収集・保存・展示と平和構築のための施設が新たに開設され、市民運動としての新たな平和活動が進んでいます。北九州市では新たに市民の戦争体験や当時の暮らしを物語る資料などを保存・継承していく施設として「(仮称) 平和資料館」の建設が進められています。一方県内では、市民グループによる自主運営の「菊池飛行場ミュージアム」や「荒尾二造平和資料館」が相次いで設立され、錦町では「人吉海軍航空基地資料館」が開館し、戦争や地域の戦争遺産に関する資料収集や戦争体験の継承もなされています。

明治十年の西南戦争のさなかに、田原坂の激戦の中から生まれた博愛社は「日本赤十字社」の前身となりました。熊本は人間愛と人道主義のもと、いのちの尊厳と世界の平和を希求する日本赤十字社の発祥の地です。

ここ県都に、この博愛の精神を基にして、戦争体験を次の世代に伝え、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについて学ぶ常設の施設設立が強く望まれます。そこで私たちは、「くまもと戦争と平和のミュージアム(仮称)」設立を、新たな市民運動として県民、熊本市民の方々に呼びかけます。

目指す三つの姿は次のとおりです。

- I 熊本空襲を調査・記録し、保存し、未来に継承する場とする！
- II 熊本の戦争の歴史とその遺産に学び、戦争犠牲者に対する追悼・祈念の場とする！
- III 次の世代が、命の尊さ、平和の大切さを学び、ヒトに伝える場とする！

いま国連が提唱するSDGsの16番目の項目「平和と公正をすべての人に」の中で「あらゆる場所で、あらゆる形の暴力と、暴力による死を大きく減らす」と示されているように、戦争という大きな暴力を無くし、世界の平和に向けて、持続可能な社会の実現のために、県都熊本市に「戦争と平和のミュージアム」設立を願うものです。

そのためには政・財・官・学・民こぞって、全ての県民運動として一致団結して取り組むことが大切だと考え、民間による設立を目指していきます。皆様のご賛同をよろしくお願いいたします。

令和3（2021）年10月

(仮称) くまもと戦争と平和のミュージアム設立を呼びかける会

(仮称) 一般社団法人 くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会

くまもと戦争と平和のミュージアム基本構想案

プロローグ展示

「熊本の戦争前史～博愛社の発祥から、戦前の市民の暮らし～」



展示①

「熊本空襲 ～二度の大空襲をへて～」

軍事色が強い子ども向け絵本『キンダーブック』昭和14年3月号



1945年8月10日の白川左岸の軍需工場へのナパーム弾攻撃

展示②

「熊本の戦争の歴史をたどる～熊本に残された戦争の傷跡“戦争遺跡七大特徴”～」



歩兵第十三連隊正門
（『歩兵第十三連隊史』から引用）

展示③

「昭和の戦争時代～満州事変からアジア・太平洋戦争までを、戦時資料でたどる～」



入営「武運長久」寄書き

エピローグ展示

「戦後の熊本、平和社会の実現、未来に向けて」



第六師団終焉の地、ブーゲンビル島豪州台での遺骨収集（1966年）

○ミュージアム、六つの特徴と性格

- 1 次世代の子ども達へつたえる！
- 2 歴史の客観性と総合性を！
- 3 熊本は平和活動発祥の地！
- 4 「SDGs」平和と公正をすべての人に！
- 5 平和のための調査と研究、情報の公開、デジタルミュージアムを！
- 6 犠牲者追悼と平和を祈念して！